



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第 62 号
2018年1月20日
編集兼発行人
谷口 正俊

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



UFO 出現か!?

撮影者：井出 英雄
撮影日：平成 28 年 3 月 8 日
カメラ：キャノン SX280HS
S 速度 1/1000、絞り f5.6、焦点距離 35mm
撮影場所：久慈川河口
撮影余話：朝から霧の濃い日だった。12 時半過ぎに日立港から久慈川の赤い橋にさしかかると、海側の空中に得体のしれない巨大な物体がぼっかり浮いていた。初めは気球かと思ったがどうも違う。橋を渡ったところで車を堤防道路に寄せ夢中でシャッターを押した。若い人達が寄ってきて「何これ。UFO ですか？」と聞かれ、「そういえばあれはガスタンクだ。霧で浮いて見えているんだよ」と我に返って返答したものだ。

新年を迎えて



支部長 住川 雅晴

明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで明るい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、米・仏新大統領の登場、中国政府体制強化、北朝鮮の核・ミサイル開発など、世界の政治・経済を揺るがす大きな出来事が目白押しでした。各国におけるナショナリズムの台頭、中国の覇権主義の表面化、北朝鮮の脅威による我が国の安全保障の現実化など新時代の混迷がいろんな形で顕在化した年でした。

今年は、これらの問題の解決に向けて知恵を絞る年です。20 世紀の二度に亘る世界大戦の苦い経験から、同じ過ちを繰り返さないように、地球上の全ての人々に幸せをもたらすよう解決に向けて知恵を絞る年にしたいものです。また今年は干支で言えば“戊戌”（つちのえいぬ）の年です。この年は次の時代に備える年だそうです。

日立社友クラブ茨城支部は 1,000 名を超える元気な会員を擁する組織です。自然のなかを仲間とともに歩く会、俳句・写真など同じ趣味を通して仲間と楽しむ会、パソコンの得意な人に教えてもらう会など、広範囲の同好会活動を通じて、それぞれ会員がそれぞれの身の丈に合った豊かなシニアライフを楽しんでいます。今日を楽しみ、ワンランクアップの明日に向けて豊かな健康寿命を楽しみたいと思われる方のご加入を歓迎いたしております。

今年が皆様にとって豊かで実り多い年でありますことを祈念申し上げますと共に、ご家族皆様が元気で

明るく発展されることをお祈り申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

茨城支部からのお知らせ

2017 年 12 月 茨城支部役員会報告

- ①12/12 時点での会員総数は 1,034 名で、前年同期に比べて 20 名の減少となった。茨城支部新規入会資格者に支部便りを同封して茨城支部への入会案内をお送りしています。皆さんからも OB 会等の機会を利用して、新会員の勧誘をお願いします。
- ②茨城支部として「ある町の高い煙突」映画化の広報活動や撮影のエキストラなどの窓口をやることになった。会員の皆様にご協力を呼びかけしますので、積極的にご参加をお願い致します。

茨城支部総会のご案内

2018 年度第 116 回茨城支部総会の開催を以下に予定しています。一年ぶりに皆様との語らいを楽しみに、多数のご参加をお待ち申し上げます。

- 1. 期日：2018 年 5 月 25 日(金) 11:10~14:30
- 2. 会場：ホテル天地閣

★詳細内容は別途後報致します。

「理科室のおじさん」急募

日立理科クラブからのお願いです。

週 2 日ほど、日立市内の小学校へ出向いて、理科実験のお手伝い(準備・整備・後片付け)をして頂ける方を募集しています。今までの方が高齢になった為、後継者へバトンタッチしたいのです。「子ども好き・科学好き・モノづくり好き」な方の力をお貸しください。連絡先：日立理科クラブ 担当：畑山・香川

TEL・FAX:0294-24-3104

日立野武士 南極を征く

《日本南極地域観測隊と日立・半世紀の絆》

多賀 正昭



南極の探検史

南極は、大陸を取り巻く暴風圏や過酷な自然環境のため、地球の五大大陸では唯一人間が棲みつかない大陸でした。十五世紀半ばから十七世紀半ばの大航海時代でも、南極は探検の対象外の地域で、二十世紀初頭までに南極を訪れたのは、主にアザラシ猟、そして捕鯨に携わる人々でした。十九世紀末から二十世紀初頭には南極探検の英雄の時代と言われ、ノルウェーのアムンゼン、英国のスコットなどと共に日本の白瀬矗らが、国家の威信を背負い、地理的な空白を埋める壮絶な探検を行った時代で、今から一〇〇年ほど前にすぎません。探検の時代を経て、日本を含む十二ヶ国が参加した一九五七年〜五八年の国際地球観測年を契機に、観測の時代が幕を開けることとなります。一九五六年十一月八日第一次日本南極地域観測隊を乗せた『宗谷』は東京晴海ふ頭を出港しました。そして南極プリンスハラルドのオングル島に昭和基地を建設、西堀越冬隊長以下十一名の隊員が初めて越冬観測にあたりました。第二次南極観測隊は、厚い氷と悪天候に阻まれて当時のソ連の「オビ」号に救出され、昭和基地に残してきた十五頭のカラフト犬救出もできない状況で越冬を断念。第三次隊で無人の昭和基地に動く黒い影を見つけた。「タロ」「ジロ」の生存は酷寒無人の地で「よくもまあ！生きていた」感動を伴って世界を駆け巡るニュースとなりました。「宗谷」の老朽化により第六次隊で昭和基地を閉鎖。四年

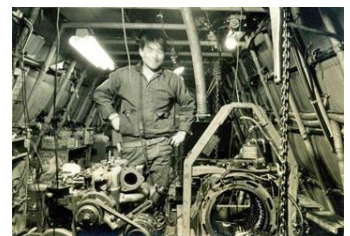


南極大陸目指す「しらせ」

後新しく建造された南極観測船「ふじ」で、第七次隊が昭和基地を再開し、大きく変わった船で昭和基地の施設も充実発展していききました。その後観測船は、白瀬南極探検隊に敬意を払い命名された「しらせ」にパトロンタツチされました。

日立から初めての南極観測隊へ

南極観測を推進する文部省の南極観測統合推進本部から、日立に電気担当隊員の依頼がまい込んだのは、「ふじ」の二回目の航海となる第八次南極観測隊(鳥居鉄也隊長)の時でした。当時(日)制御盤検査課、修井寮寮生、二六歳の私に南極の話が降ってくると思ってもいませんでした。工場の選考基準は、発電関連の職場でかつ昭和基地の生命となる電力を供給するディーゼル発電機の運転保守を担当する技術とそれ以上に、体が丈夫なフアイトマンであることであつた。この条件は、職場と職種と日立会山岳部のバリバリであつた実績によって高く評価され、山の神様と山岳部の仲間と職場の先輩と諸氏に感謝感激のご報告をいたしました。社内での決定を得ると直ちに、山手工場での発電機本体の組み立て、巻



発電機を手入れする筆者

線、絶縁処理、焼嵌め作業としつかりと実習させて頂き、万一にも発電機が焼付いても復旧する材料を一式準備していただきました。これは、資材や部品の供給が越冬期間中一切ない世界でもとても心強い味方であり、実習の日々の意気込みを積み込んだ宝箱でした。幸いに、当時の明電舎の発電機(四五KV Aと二十KV A)がトラブルなく稼働してくれましたので誰よりもホッとした次第でした。

て参加しやすしい号令が今も懐かしく蘇ってきます。

日立は昭和基地の縁の下の力持ち

第八次隊での任務が無事に終えて帰国して、四年後に経験者として第十二次隊で二度目の越冬をさせてもらいました。その後第十六次隊で山検から滝川さん、第十七次隊で電検から光山さん、第十九次隊海老沢さん、第二十次隊上原さんと続けて派遣され、第二十一次隊では昭和基地新発電機五ヶ年計画の初年度にあたり、現地で今までの経験を生かしての検討依頼がまい込み三度目の南極となり、嬉しさ一杯でした。第二五次隊で新発電機に日立の発電機が納まり、今も力強く稼働している。

越冬生活の面白ルール

第八次隊は、「ふじ」乗組員一八一名、観測隊員は、夏隊十六名、越冬隊二四名でそのうち観測部門が十四名、設営部門が十名でした。男だけの二四人の世界は、普通の社会では経験することが出来ないような楽しい思い出や大変だったこともたくさん残っています。南極の厳しい気候のもとでは、越冬隊員は助け合つて生活しなければならぬことが自然に身についてきます。その一つの生活のルールとして、食堂の食卓の並び順は、隊長、副隊長を真中に挟んで年齢順に左右に並びます。週一回の風呂日の順序も、隊長からはじまり、年齢順に入ります。本人が居ないところで、その人のこと、噂をしない。お酒はお酌せず、独酌かつ二日酔い自分持ちです。これは、各人の仕事と体調ペー

と体調ペー

ス、相手の立場で考える処からきています。共同作業で人手を集める号令は「手空き総員集合」です。これは、各自の判断で今していることを鑑み

今、昭和基地では日立から派遣された五八次隊の江口隊員と五九次隊の舟木隊員が緊張の中で引継ぎしていることでしょうか。日本の国際貢献の一翼を担う南極観測事業、そして地球上唯一国境のない南極大陸。新しい年が、国々が、国境のない平和な理想郷、南極大陸のようにになりますよう願っています。

多賀 正昭氏 連絡先

〒316-0023 日立市東大沼町4-20-8
電話：0294-35-1709
メール：m-tagata@mtf.biglobe.ne.jp



昭和基地バーバー

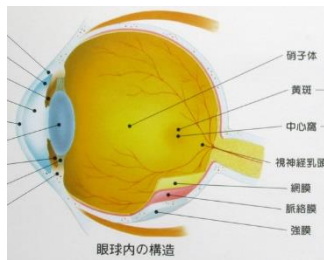
リレー随筆 (62)

黄斑変性を克服しながら 北川 碩



73歳の時、最愛の妻を交通事故で失い、4年後黄斑変性を発症した。病状が判るまでには、「文字が見えにくくなった⇒町のめがね屋さんで視力検査したら眼鏡は合っているが他の病気かも?と脅かされた⇒(日病)の眼科に出掛け診断して頂いたら眼底出血だと言われた⇒長姉に紹介された岩手医大病院は明治の末期頃流行していた「トラホーム」を治療するために設立した病院で、その眼科の町田教授に初めて「病名:黄斑変性」であると診断された。以後数年間岩手医大まで通ったが、これ以上回復することは見込めないとのことで諦めた。(その後町田教授は埼玉の独協医大に移り、京都大の山中教授などと一緒に、黄斑変性学会の理事長で活躍中)

ところで皆さん、黄斑変性はどんな病気かご存知ですか?通常は加齢と共に網膜の黄斑というところに異常な老化現象で視力が低下する病気なんです。黄斑の中央0.3ミリ以下の中心部の機能が劣化するのですから回復は極めて難しいと言われています。



眼球の構造

そのような環境の中での私生活は「出しゃっぱりで気力大」だから生きられているような気がする。日々の生活で、孤独防止のため朝夕知人が電話をかけてくれるよう依頼している。それ

に対応し「朝起きた、元気だよ!夕方は今日も元気に過ごしたよ!」と回答している。週7日のうち5日は病院、迎えに来てくれるスポーツジム・エアロビクスなどで体を動かし、年10回程度は交通費半額を活用して旅行を楽しんだりしている。特に正月はバスツアーで大阪・京都・奈良、東北方面を観光している。残りは畑仕事で膝付きながらの草むしりと植付けまでこなしているが、たまに蜂に刺されることがあり注射器を持参し緊急対応している。好きな所にでかけることにして家の中に閉じこもっていることはない。そんな中で、週3日各1時間来てくれるヘルパーさんが金曜日だけ作ってくれる弁当を持参してでかける。スポーツ後の昼食は最高の気分転換になっている。

けれど外出時の苦勞も多い。視力は0.1以下、信号機の判別はできないし、乗用車はほとんど止まってくれない。歩道に停車している車に体当たり4回、歩行中の転倒21回など怪我も絶えない。だから手製の旗を作り杖に取り付け、周りの音を聞き分けてから横断するのだから、正常なみなさんより時間がかかる。



自作の旗を持って

今後全盲になる可能性があり覚悟は決めている。そうなる前に老人ホームの視察に出掛けている。「どの老人ホームも何故こんな辺ぴなところに設けるのだろうか?」と言う疑問が出てくる。90歳前後になると誰もが聞こえなくなってくる。だからボケがますます進行する。これでは長いこと生きられない。その前に、身の回りの整理整頓が必須になってきたようだ。(聞き取り:澁口編集委員)

同好会行事に参加して

「歩こう会」 戸来 實



私は4月6日の歩こう会に初参加した。東海村の「阿漕ヶ浦の桜めぐり」である。幹事さんや世話人さんから要所の説明を受けながらのウォークは早朝ウォークなどとは違って心地よいものがあった。今回の阿漕ヶ浦名称の由来等説明の中にも長い間当地に住んでいて知らなかった事などもあって大変参考になった。昔、水戸光圀公が近隣住民がわざわざ伊勢に向かなくてもお伊勢参りが出来るようにと、この地に本殿をつくり伊勢の皇大神宮を分祀して村松大神宮とした。さらに伊勢の阿漕ヶ浦から魚を運びこの池に放してこの池の名前も阿漕ヶ浦と命名した。これが当地東海村の阿漕ヶ浦の由来であるとのこと。参加者34名これらの由来にも想いをおこし早咲きの桜を背景に持参した昼食の弁当もまた格別だった。豊かな自然そして歴史を想う「歩こう会」、これからも積極的に参加して心身のリフレッシュをはかりたい。

「囲碁の会」 加藤 利男



日立地区の「囲碁の会」に入会させてもらってから十数年が経ちます。初めの数年間は少しずつ棋力が上がっていくのが感じられましたが、ここ数年は足踏み状態で、負かされる度にサッパリだなあと思うことが多くなりました。趣味の碁とはいえ、勝負ごとですから、勝つと晴れの日の気分というかパットが決まった気分、負けると少

し凹んで雨の日の気分になります。しかし負かされても、どう打てばよかったのか「うわ手」の人に、さらさらと並べ直してもらって、ひと言、ふと言、教えてもらえた時には、そうかと、今日は少し勉強になったと晴れの気分になります。碁が終わった後、並べ直すということが私にはなかなか出来ませんが、1局をちょっと振り返って考えてみる事を心がけながら、これからも囲碁を楽しみ、頭の老化を少しでも防げたらと思っています。

「勝田 PC」 清野 洋一



私は日立製作所を60歳で定年退職、65歳までイタリアのミラノで働き帰国後、75歳まで古巣の工場で週3日アルバイト勤務しました。その後、勝田PCに毎回参加させていただいている新参加者です。

会社でPC操作の分からないことはいつも周りにいる熟達者に助けて貰っていました。いざ自由の身となって助けていただけるのは「勝田パソコン何でも相談」しかないと考え、参加することにしました。勝田PCは会場定員10名に対し、毎回15名を超える盛況で、雰囲気も和気あいあいです。

講座の内容は、フリーソフト、便利技、PC管理法、スマホ・タブレットの使い方、Windows10の特性と使い方など、会員による経験実例なども含む全て実戦に即したものです。音声入力実用化されているGoogleアプリ利用法などの講習も予定されており、今後も参加させていただきます。

同好会の行事ご案内 (2月~4月)

1. 第72回歩こう会【日立会瀬の桜】

全国桜100選の平和通りから助川小の四代桜そして会瀬グラウンドなど日立市内の名所を散策します。

- ・開催日：平成30年4月12日(木)雨天4月19日(木)
- ・集合：日立駅中央口駅前広場 10:00
- ・コース：日立駅前発→平和通り→助川小→日立工業高校→小平会館跡→会瀬球場→会瀬グラウンド(昼食)→助川中→平和通り→日立駅前着
13時半頃解散予定(ほぼ平坦地 全長約7km)
- ・持参品：弁当、飲物、雨具等
- ・会費：200円(非会員500円)
- ・申込締切：平成30年4月5日(木)
- ・申込先：石橋 康正
Tel/Fax：0294-37-0439/050-1485-5973
E-mail：yasumasa_ishibashi@ybb.ne.jp

2. 第75回研修会

【国立科学博物館、国立西洋美術館、旧岩崎邸庭園】

東京都内の国立科学博物館、国立西洋美術館見学と旧岩崎邸庭園を散策します。

皆様の参加をお待ちしております。

- ・開催日：平成30年2月28日(水)
- ・集合：大甕駅前(常陽銀行大みか支店前) 7:00
日立電鉄交通サービス南営業所 7:15
- ・帰着：大甕駅前 18:30頃の予定
- ・会費：6,500円予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：先着40名
- ・申込締切：1月31日(水)
住所、氏名、電話番号を連絡下さい。
- ・申込先：奥村 清
Tel/Fax：0294-36-0308
E-mail：kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp

3. 定例行事予定一覧(開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします)

グループ名	連絡先	実施日(曜日)			場所	時間	備考
		2月	3月	4月			
野鳥・自然観察グループ	本宮公夫 0294-42-3576 motomiyakm@kna.biglobe.ne.jp	19(月)			涸沼	9:00~	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			19(月)		高戸海岸	9:00~	
				23(月)	水沼ダム	9:00~	
囲碁の会	日立地区 助川一弥 080-3443-3577 kazy.sukegawa@net1.jway.ne.jp	14(水)	14(水)大会	11(水)	大みか拠点	10:00~(大会 9:30~)	参加費：¥100/回 大会：¥1000
		28(水)	28(水)	25(水)			
	勝田地区 七海 清 029-273-8450 fwny8718@mb.infoweb.ne.jp	15(木)	15(木)	19(木)大会	大島コミュニティセンター	9:00~	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	澁口七郎 0294-43-5134 s-shibuguchi@net1.jway.ne.jp	26(月)	26(月)	23(月)	ラポールひたち	10:00~	参加費：¥1700/回
卓球クラブ	長瀬寿美雄 0294-53-8235 cho_san@estate.ocn.ne.jp	7, 14 21(水)	7, 14 28(水)	4, 11 18(水)	会瀬体育館	9:00~ 12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	5(月)	5(月)	2(月)	大みか拠点	10:00~ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む
写真五七五	小林啓治 0294-35-3931 kt-koba@net1.jway.ne.jp	2(金)	2(金)	6(金)	大みか拠点	9:00~ 12:00	参加費：¥300/回 昼食別途
パソコングループ	HPの会 中村 進 0294-52-5525 ssm2332@knh.biglobe.ne.jp	6(火)	6(火)	3(火)	大みか拠点	10:00~ 15:00	参加費：¥200/回 昼食別途
	基礎講座 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	13(火)	13(火)	10(火)	大みか拠点	10:00~ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む
	勝田地区 佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	27(火)	27(火)	24(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15~ 16:00	参加費：¥700/回
	専門講座I 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	16(金)	16(金)	20(金)	大みか拠点	10:00~ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む
専門講座II		22(木)	22(木)	26(木)	大みか拠点	10:00~ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む

注) 旅行会(連絡先; 安田 出)は、開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

訃報 真に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。
衷心よりご冥福をお祈りいたします。

川崎 健嗣 平成29年12月5日 享年91歳
小島 勲 平成29年12月9日 享年76歳
山崎 徳夫 平成30年1月6日 享年83歳

編集後記 多賀さんの南極物語、日立初めての昭和基地電気担当隊員に選ばれたこと、凄い名誉なことだったと推察します。引き続き隊員を派遣して2017年が50年目、その功績を国立極地研究所から日立が表彰を受けたこと、感銘深いことですね。北川さんの目の不自由さを克服しながら老化と向き合う北川流に感動しました。思想家ルソーが言った「人生いかに楽しみながら長く生きたか」が大切で、「出しゃっぱりで気力大」が原動力。毎年支部総会出席多謝。 **谷口 正俊**